

# 令和4年度 吉田南中学校グループ 小・中連携研修会のまとめ



R4.6.13 第1回小・中連携研修会（吉田南中授業参観）



R4.11.21 第2回小・中連携研修会（本城小での協議）

## 学習指導部会まとめ

### 【主な協議事項】

#### ○ 学力向上→Web問題

- ・ かけ算など高学年でも苦手な子がいる。Web問題が難しい。

(指導助言) 学びに向かう力がない子がいる。1つの問題にじっくり取り組める力を育てなければならない。

#### ○ 次年度はよりICTの活用能力が高まる。

- ・ タブレットの持ち帰りについてはどうか？
- ・ 行っている。子どもの状況がみられる。

(指導助言) 学習の個別化にも役立つのではないか。書く速さも大切、聞いて書くのも大切。

- ・ 遅い子を待つことも大切だが、早い子への対応も大切。

#### ○ 家庭学習でもICTが活用されるようになるのでは・・・？

- ・ 中学校までにそろえておいてもらいたいことは？
- ・ 予習については中学校の各教科で行っていく。  
宅習帳を全学年で行っている。→ただ写して、やり終えた感をもっている子がいる。  
何が分かったのか、意識付けをしている。  
振り返りが大切
- ・ やはり写している子がいる。
- ・ 宅習の振り返りが大切。一人一人ちがうので、よさを見付け示す。

(指導助言) 単元の見通しをもたせる。予習ができるようにする。

タブレットを活用することができるのでは。

予習－授業－復習の流れを小学校でもできないか。

- ・ 学習に向かう姿が大切。単元を見通す学習も大切。
- ・ 負担にならない程度で予習も取り組む。

#### ○ 小学校でも英語が始まったが、中学校英語も変わったのか？

- ・ 高校のものがおりてきて、単語数も増えた。アルファベットは小文字で書けた方がよい。

#### ○ 家庭学習強調週間は、今後も継続する。

(指導助言) 各学校のよさも大切にしながら、共通で取り組めることが中学校で役立つのでは。例えば学定分析を基にするなどして共通実践事項を決め、進める。

# 生徒指導部会まとめ

## 【主な協議事項】

### 【視点1】「情報機器への関わらせ方、情報モラル教育の在り方」

- メディアに接する時間が長い。それに対する危機感の少ない家庭がある。
- 家庭に帰ってからの使用に問題がある。
- 家庭の意識が二極化している。
- 家庭への啓発として、道徳（オープンスクール）で保護者と一緒にメディア危機についての活動を行った。
- 中学校は、テスト期間中にノーメディアチャレンジに取り組ませている。
- 授業中、ゲームをしている生徒もいた。
- メディアに代わる何かをもっているわけではない。
- 家庭への持ち帰りのさせ方をどうするか。
  
- DQワールドとは・・・。
- 「少年白書」より
  - ・ フィルタリング・・・約73%の被害者が被害時に利用していない。
  - ・ コミュニティサイト・・・活用されがち
- タブレットをいかに正しく使わせるか・・・必須  
保護者に、常に、子どもたちの姿を発信していかなければいけない。専門の方を呼んで、保護者や教師とも学び続ける機会をつくっていくべき。  
携帯やタブレットは、家庭ではリビングに置くなど、部屋に持ち込ませないように。啓発していく必要がある。

### 【視点2】「いじめ・不登校(傾向)対策」

- いじめ事案についての共有を行っている。
- 不登校・・・いづらさ感じる子
- 中学校との連携の在り方
- 個別の事案への対応
- 週1回、生徒指導担当等で生徒指導会(中学校)
  - ・ 不登校(長欠)・・・原因が多様。ケース会議を開いている。
  
- その場で納得させて帰すことによって、保護者からの「子どもがいじめられた」の訴えは減るのではないか。
- 家庭の多様化

# 特別支援教育部会まとめ

## 【主な協議事項】

### 1 支援員について

- 支援員にもっと来てほしいが、難しいようである。
- 支援員への配慮も必要
- 支援学級には入らず、交流学級での支援をお願いしている。
- 国語・算数を中心に入ってもらっている。
- 1学期は1年生中心、後半は3年生中心に入ってもらっている。(中学校)
- トラブルが起きたときに、臨機応変に対応してもらっている。
- 子どもの情緒の安定につながっている。

### 2 中1ギャップについて

- 交流学級と同じではなく、無理がないようにしている。
- 息切れしないように考えている。小学校との違いも感じさせながら。
- 支援学級での時間は少ない。司会等もするので、できるようにしておく。
- ごほうびタイムは中学校でも取り入れている。
- 見学会はとてもよい。それぞれで来てもらって大丈夫。
- 見学会最後はみんなで集まるとよい。(3学期)

### 3 幼保の見学について

- 幼保からの情報が少ない。保護者の我が子に対しての気付きがあるのか。気になる子がいるので、幼保に見に来てほしいということがあった。
- こちらから刺激を与える。
- 検査が間に合わないことがないようにしたい。

### 4 その他

- WISCができる人が学校にいない・・・外部で
- 保護者とコーディネーターとの温度差・・・時間をかけて話す
- 学校の意見と保護者の考えが一致せず、指導がうまくできない。

# 運営部会まとめ

## 【主な協議事項】

- 1 小中連携のゴールはどこなのか。
  - ・ 中1ギャップの改善
  - ・ 吉田地域の児童生徒の健全育成を図る
  - ・ 昔は職員同士の顔が分かり、電話等ですぐに情報交換できた。最近は難しさを感じる。今日のような機会を大切にしたい。
  
- 2 本研修会の在り方について
  - (1) 第1回研修会
    - ・ 卒業生の様子が見える、学習の様子が見える、指導の様子分かる1回目の機会は非常にありがたい。
    - ・ 授業参観で終わるのではなく、情報交換等の場も必要ではないか。
    - ・ 1回目の授業参観の後、情報交換等の場を設けることも可能。また、授業参観の途中から代表者が集まって部会を行うこともできる。
  
  - (2) 第2回研修会
    - ・ 授業参観にこだわらなくてもいいのではないか。VTRは編集が大変なのでは。
  
  - (3) その他
    - ・ どのように研究主題や視点が決まったのか。
      - 令和3年度のうちに次年度担当校が案を作成し、第2回推進委員会時に提案  
令和4年度第1回推進委員会時に確認
      - 担当校の輪番や年2回の研修会の在り方など、令和元年度からの経緯の説明
  
- 3 小中連携の在り方について
  - ・ 些細なことでも連続性をつくることで、他に波及するのではないか。
  - ・ 普段から連携できるように、チームズ等の活用はできないか。
  - ・ 4小から来ている中で、中学校で困っていることはそんなにない。小さいところから共通実践をはじめ、何か9年間の連続性が形としてできるのでは。
  - ・ 拡大印刷機を他校に借りるなどの連携があった。普段のつながりが必要。